

第22回 いきいき市民のつどい

令和元年度 記録集

岸和田発 今の防災、明日の防災

～つながろう すべてを越えて～

大阪府立
和泉高等学校 吹奏楽部

オープニング演奏
合唱「花は咲く」



一般社団法人
救犬ジャパン

災害救助犬について
救助犬ふれあい体験



社会福祉法人
岸和田市社会福祉協議会

災害ボランティアセンター
との連携について



開催日時：令和2年1月25日(土) 13時30分～15時30分

開催場所：市立産業会館(別所町3丁目 13-26)

主催：岸和田市・岸和田市教育委員会

企画・運営：岸和田市生涯学習推進本部

目 次

1. 開催要項	-----	2
2. オープニング		
・大阪府立和泉高等学校吹奏楽部	-----	3
3. 開会のことば	-----	4
4. 主催者あいさつ	-----	5
5. 活動発表		
・一般社団法人救犬ジャパン	-----	6
・社会福祉法人岸和田市社会福祉協議会	-----	10
6. 茶話会～閉会	-----	18
7. アンケート集計	-----	19
8. 「いきいき市民のつどい」 チラシ	-----	26

開催要項

- 1 開催趣旨 生涯学習のまちづくりを市民ぐるみで推進するために設置された生涯学習推進本部。みなさんと生涯学習について考え、連携と協働による社会的ネットワークの構築をめざす学習と交流の場として、毎年「いきいき市民のつどい」を企画・運営しています。
- 2 全体テーマ 「岸和田発 今の防災、明日の防災
～つながろう すべてを越えて～」
- 3 内容 防災に対する意識がより一層高まるなか防災知識を身につけて、明日の災害に備えていこうということで、「災害時に備えてあなたができること」を考える機会にしませんか。和泉高等学校吹奏楽部のオープニング演奏と合唱、災害救助犬による救援活動、発災時に市民の皆さんとどう動くか、災害ボランティアセンターとの連携について、防災をテーマに発表します。
- 4 主催 岸和田市・岸和田市教育委員会
- 5 企画・運営 岸和田市生涯学習推進本部
- 6 開催日 令和2年1月25日（土）午後1時30分～3時30分
- 7 会場 市立産業会館（別所町3丁目13-26）
- 8 参加対象者 興味のある方
- 9 参加費 無料
- 10 活動発表
- ・一般社団法人 救犬ジャパン
救助犬訓練士 ^{まつばやし} 松林 ^{りょうこ} 良子さん
災害救助犬 ^{きんぞう} 金蔵くん
 - ・社会福祉法人 岸和田市社会福祉協議会
^{たかお} 高尾 ^{あや} 彩さん
- 11 茶話会 1 グループ約6人に分かれて語り合う
- 12 スケジュール 13:00 13:30 13:45 14:00 14:55 15:25 15:30

受付	オープニング	開会 行事	活動発表	茶話会	合唱 閉会
----	--------	----------	------	-----	----------

大阪府立和泉高等学校 吹奏楽部

オープニング「音楽をチカラに変える」

1964年に設立

1年生 38名、2年生 29名、3年生 29名

現在は1、2年 67名で活動

令和元年8月 大阪府吹奏楽コンクール大阪府大会において、金賞を受賞。

岸和田市フレンドシップコンサート、文化祭、泉南地区連合音楽会など1年で十数回の演奏会開催
人を勇気づける曲、人を笑顔にする音がある。そんな音楽を演奏しています。



【第22回 いきいき市民のつどい演奏曲】

- ・「SEKAI NO OWARI コレクション」
- ・「パプリカ」
- ・「ルパン三世のテーマ」



開会のことば

皆さんこんにちは。岸和田市生涯学習推進本部の岡野です。本日は大変お忙しいなか、第22回いきいき市民のつどいにこのように多数ご参加いただきまして、本当にありがとうございます。

生涯学習推進本部というのは、岸和田市に在住、また岸和田市に勤務されているお子様から年配の方まで、すべての人達がこの岸和田市に住んでよかった、この町に住んで本当に良かったといえる街にするために、企画・運営をするところです。

今年も5回ほど委員会を開きまして、どのような形で今年度は開催するかという内容を決めました。第20回から今までとは違った形でこのつどいをしようではないかと、岸和田の将来を担う若い人達に参加してもらおうという取り組みをしています。第20回には久米田高等学校のダンス部、昨年度は、産業高等学校のデザインシステム科2年生に、今回は、さきほど演奏していただいた和泉高等学校の吹奏楽部の皆さんに参加していただきました。

そしてもう一つの内容は、今日の新聞にも載っていましたように、南海トラフが約3mの高波で押し寄せてくるというような報道がありました。台風にしろ、地震にしろ、いつ発生するか分かりません。それを未然に防ぐために事前に色々と学ぼうということで、昨年より防災について取り組んできました。今年度は初めて、金蔵くんという災害救助犬が来ています。助かる命を見つけるために、救犬ジャパンの松林良子さんが災害救助犬を育成しています。

最後に、岸和田市社会福祉協議会の災害ボランティアセンターの取り組みについて、報告していただくという内容です。

本日は2時間足らずのイベントとなりますが、最後までご協力をお願いしまして、開会の挨拶とさせていただきます。本日は本当にありがとうございます。



岸和田市生涯学習推進本部

おかの てるあき

委員長 岡野 輝秋

主催者あいさつ

皆さんこんにちは。岸和田市長の永野耕平です。

本日はこのようにたくさんの方々にお越しいただき、感謝申し上げます。また、日頃より皆さんには岸和田市政にご尽力いただきまして、この場をお借りして厚くお礼を申し上げます。

今日は一般参加の方が多くおられると聞いています。そしてまた都道府県を越えて和歌山からお越しいただいた方、岸和田市以外で泉佐野からお越しの方がおられると聞いております。遠いところからご参加いただいて心より感謝申し上げます。

本日の「いきいき市民のつどい」は防災について考えます。オープニングでは、和泉高等学校の吹奏楽部、「和泉プラス」の皆さんによる、非常にかっこよくて、質の高い演奏を聞かせていただきました。本当に可愛くて、頼もしくて、明るい未来を予見させるような演奏だったと思います。

さて、今回は防災がテーマです。私が中学生の頃、阪神淡路大震災が起こりまして、1月17日、非常に痛めつけられた神戸の街に私は何度も足を運んで、現地でいろんな方々と一緒に野菜を配ったり、炊き出しをしたりさせていただきました。現地で見たものはまだ鮮明に残っています。私は、関西学院大学にいましたので、非常に傷ついた方々とたくさん大学で出会いました。ご家族が亡くなったとか、家が潰れたとか、学生時代を通じて震災の恐ろしさを肌で感じて過ごしたことを覚えています。

いろんな災害がありますがけれども、非常に大きかったのは3月11日の東日本大震災です。この時も私の友人が気仙沼にいまして3日間連絡が取れませんでした。おそらくだめだろうと思っていました。あのような中で生きているのは難しいだろうと思いました。しかし、4日目に連絡があって生きているし、周りの皆も生きているという連絡をいただいたので、急遽救援物資を私の車に乗せて警察の許可を得て現地まで運びました。現地についたのは3月20日だと思います。その時に痛ましい津波の後を見せていただきました。その光景が私の中に残っています。

さきほど、和泉高等学校の演奏を見せていただいて、本当に素晴らしいと思いました。それを見ておられる方々の目も愛情に満ちて素晴らしいと思いました。そういう姿を震災、津波等はすべて奪い去っていくものだと思います。私たちは日頃、目の前に愛おしいものがたくさんあります。その愛おしいものを全て奪い去るのが災害です。我々にできることは、災害に対して目の前にある全ての大切なもの、愛おしいものを守るために、今どれだけ備えることができるか。そういった意味で、今回は和泉高等学校の皆さんも一緒になって老若男女が、そしてまた地域も超えていろんな方々と語り合う機会を得ることができました。この機会を有意義なものにさせていただきまして、それぞれの皆さんが防災についての思いを胸に一つ新たに灯していただいて、岸和田の防災、また日本の防災について考えていただきたいと思います。

少し長くなりましたが、「教えることは二度学ぶことである。」と言われていています。どうか皆様、今日得た体験をご近所・お友達にお伝えいただきまして、学びを深めていただきたいと思います。今日は一日どうぞよろしくお願いいたします。



ながの こうへい

岸和田市長 永野 耕平

一般社団法人 救犬ジャパン

災害救助犬「助かる命を見つけるために」

救犬ジャパンとは、災害時の出動による「助かる命を見つけるために」、大阪で唯一、災害救助犬を育成する、主にプロの犬の訓練士で立ち上げた救助犬実働チームです。

犬が大好きで、犬の能力に魅せられたメンバーが集まり、助かる命を見つけるために、災害救援活動をしています。

一般社団法人救犬ジャパン理事長

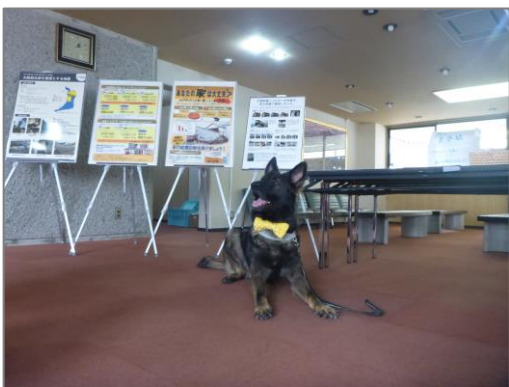
- 【資格】 日本警察犬協会公認訓練士
- 【経歴】 平成20年～令和元年大阪府警本部指定嘱託警察犬指導手
IRO国際救助犬指導手
- 【活動実績】 平成26年広島土砂災害、平成28年熊本地震、平成30年西日本豪雨出動、
国際救助犬世界選手権2011（ベルギー）、2013（オランダ）出動



発表者

岸和田市在住の救助犬訓練士 ^{まつばやし りょうこ} 松林 良子さん

岸和田育ちの災害救助犬 ^{きんぞう} 金蔵くん



救助犬?? ハンドラー??

1

このような言葉を耳にしたことはありますでしょうか。

災害現場で捜索するわんちゃんのことを「救助犬」、トレーニングする人のことを「ハンドラー」といいます。このように人のために働くわんちゃんのことを使役犬と言います。

それではハンドラーである私の紹介から始めさせていただきます。

私たち救犬ジャパンのハンドラーは、各々が家庭犬のしつけや、警察犬や救助犬のような高等訓練などを行っています。

この写真のようにオーナーさんがいるわんちゃんをトレーニングし大会に出して実績を上げたり、救助犬試験に合格させたりというのが私たち救犬ジャパンメンバーのお仕事になります。



2

自己紹介



松林良子
日本警察犬協会公認三等訓練士
わんわん塾代表
一般社団法人 救犬ジャパン理事長

平成20年～令和元年大阪府警察本部指定嘱託警察犬指導手
2011 IRO国際救助犬世界選手権 ベルギー大会 日本代表
2013 IRO国際救助犬世界選手権 オランダ大会 日本代表
2014 広島県土砂災害出動
2016 2月救犬ジャパン立ち上げ
2016 4月熊本地震出動
2018 5月一般社団法人救犬ジャパン
7月西日本豪雨出動
2018 11月より日本レスキュー協会にて非常勤で勤務

3

救助犬の種類

- ・瓦礫捜索犬
- ・広域捜索犬
- ・雪難捜索犬
- ・雪難救助犬
- ・水難捜索犬
- ・マントレーリングドッグ
- ・遺体捜索犬(瓦礫・広域)
- ・水難遺体捜索犬

4

救助犬といってもいろんな種類のお仕事に分かれており、トレーニングする場所によっても違います。また、鼻の使い方も違ってきます。

救助犬どんな犬がなれるの？

- ・基本、犬種問わずどんな犬でも大丈夫
- ・但し、人に攻撃的なわんちゃんやハンドラーから離れられない犬
呼んでも帰ってこない犬は不向き
- ・見た目が健康的ではない犬
足腰が悪い、体調がすぐれない
何か疾患がある

5

いつから訓練を始めるの？

- 生後2, 3ヶ月くらいから
いろんな場所へ連れて行ったり
いろんな人に触ってもらったりして
人間のことが大好きな犬にします。
- 瓦礫の中でご飯を食べたり
おもちゃで引っ張り合いっこをしたり
瓦礫の中で作業することに違和感を
覚えないようにトレーニングしていきます

6

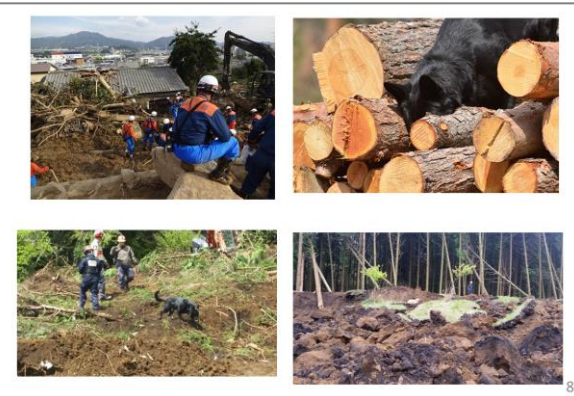


7

左：生後10日前後、まだ目は見えていません。
右：生後2か月程度、この頃から人に関わることに
対して嫌な思いをしないように、人を選んで
触ってもらいます。

瓦礫上でのトレーニングも始めています。

右下、生後3か月前後、このころにはもう瓦礫を
遊び場のように走り回っています。



8

左上：2014年の広島土砂災害

左下・右下：2016年の熊本地震

この写真を見比べると、2016年の熊本地震のほ
うが捜索現場での人の数が少なくなり、救助犬が
捜索しやすい環境になってきていることから、少
しずつ救助犬に対する理解が深まっているのが
わかります。

西日本豪雨



9

私たちは小さな団体のため、災害時の出動におい
ては日本レスキュー協会の指示のもと動きます。
この災害は7月6日に発災し、何度か広島県の方
に打診しましたが、救助犬は今のところ必要ない
とのことで、なかなか出動できませんでした。



7月9日午前中広島県警より
伊丹市に拠点を置く
特定NPO法人日本レスキュー協会に出動要請。
日本レスキュー協会、救犬ジャパンで
合同チームを作り出動。

10

7月9日、広島県警より日本レスキュー協会に要
請があり、出動の可能性があるかもしれないと聞
いていたので、すぐに出動できるように、私は日
本レスキュー協会にて待機中でした。

要請後、日本レスキュー協会から4名2頭、救犬
ジャパンから金蔵と私で出動、そして現地でR D
T A（救助犬訓練士協会）2名3頭と合流して、
7名6頭で捜索に当たりました。



11

知っていただきたいこと

私たち救助犬ハンドラーは行政から救助犬の育成を任されている、わけではありません。
そしてこの育成・出動にかかる費用は皆様からのご支援で成り立っています。

募金・ご支援等について

出動の費用救助犬の育成、ハンドラー及び犬の安全装備品、資機材等の購入出動準備金として大切に使用させていただきます。

12

御清聴ありがとうございました。
応援よろしくお願いします。



13

この時の災害では、何度も行政から出動要請があり、平成 30 年 7 月豪雨では全国から延べ 129 名 99 頭が出動しました。この災害では捜索場所から 4 名のご遺体発見につながり、本当に救助犬への信頼も高まったと思われます。

また、救助犬の標準化がなされていない日本では救助体制に救助犬の導入がなされていないことで、救命の可能性がある命を救えていないという大きな課題があります。

日本レスキュー協会では、近年、消防との連携訓練を繰り返し行い、捜索時に救助犬をうまく活用できるように、顔の見える関係の構築に力を注いでいます。現在は、年に 4、5 回連携訓練や意見交換を月 1 回ほど行い、犬やハンドラーに対する理解と信頼も高まっています。今では災害だけではなく、山菜取りなどの山岳捜索などの救助犬の運用の意識が高まっています。

救犬ジャパンではこの連携訓練に積極的に参加させていただき、犬、人共にレベルアップできるよう、これからも邁進してまいります。

私たち救助犬ハンドラーは、行政から救助犬の育成を任されたりと、出動要請が来て出動するものではありません。育成している者たちが自分たちの意志で出動し現場に向かいます。自費で現場に向かうには限界があり、皆様のご協力が必要です。どうかご支援、ご協力をお願いいたします。

又いただいたご寄付は、今回のような出動費用と救助犬の育成、ハンドラー及び犬の安全装備品、資機材等の購入、出動準備金として大切に使用させていただきます。

そして、このように現場で活躍できる救助犬を作るには練習場所が必要です。

現在救犬ジャパンでは、兵庫県や長野県にある有料瓦礫施設などを借りて、毎月練習しています。その他に、本業でありますドッグスクールのオーナー様より会社の資材置き場等を無償で貸していただいております。

休みで使っていない倉庫やビル、学校、資材置き場や広域捜索のできる山や崩す前の建物、崩した後の建物などがありましたらご連絡いただけますようよろしくお願いいたします。

お時間いただきありがとうございました。

これからも救犬ジャパンをよろしくお願いいたします。
ご清聴ありがとうございました。

社会福祉法人 岸和田市社会福祉協議会

発災時に市民の皆さんとどう動くか

「災害ボランティアセンターとの連携について」

2018年9月4日、台風21号が岸和田を襲い、大きな被害をもたらしました。岸和田市社会福祉協議会は、初めて災害ボランティアセンターを立ち上げ、市民からのお困りごとを受け付け、ボランティアの皆さんと一緒に復興につなげました。地域の助け合いにより、他市に比べて復興は早かったですが、「屋根上の応急処置はどうする？」など課題も見えてきました。発災時に市民の皆さんとどう動くか、災害ボランティアセンターとの連携がうまく取れるように、取り組んでいます。



発表者

地域福祉課 高尾 彩さん
たか お あや



第22回 いきいき市民のつどい
岸和田発 今の防災、明日の防災
～つながろう すべてを越えて～

発災時に市民の皆さんとどう動くか ～災害ボランティアセンターとの連携について～



岸和田市社会福祉協議会
地域福祉課 高尾 彩
令和2年1月25日(土)

1

平成30年9月4日 台風21号上陸



瞬間最大風速49.7m/sの
猛烈な風により各所被災

【被害状況】
(平成30年11月13日 岸和田市とのため)

全壊 12軒 半壊 81軒
一部損壊3,400軒
市内最大停電件数 50,500世帯

停電解消日時
9月10日18:00頃

本庁舎の停電
9月4日13:40～22:40

※9/4 13:24 岸和田市消防本部設置風速計

2



3



4



5

皆さんこんにちは。岸和田市社会福祉協議会の高尾と申します。簡単に自己紹介をいたします。

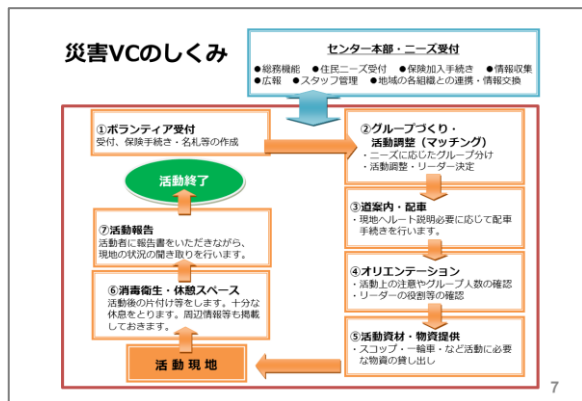
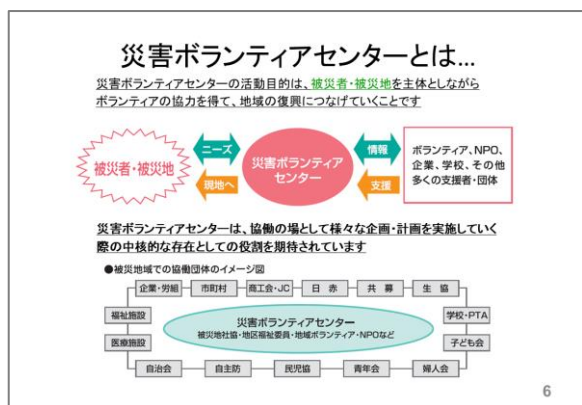
岸和田市社会福祉協議会の職員はよく岸和田市の職員さんと間違われるのですが、実は違います。地域福祉を進めるための民間の非営利の団体です。市から委託を受けている事業もありますが、民間の団体です。活動としては、福祉に関する様々なことをしています。生活の中で介護などで困った時は、社協まで連絡をお願いします。では、本題に移ります。

発災時に市民の皆さんがどう動くかという時に、災害ボランティアセンターとの連携についてです。岸和田ですが、一昨年の9月、皆さんの記憶にも新しいと思います。平成30年9月4日、台風21号が上陸しました。まさか岸和田であんな大きな被害が出るとはというくらい非常に大きな台風が到来しました。実際に被害にあわれた方もこの中にいらっしゃると思います。

こちらは福祉センターの近くのお家です。

こちらは光明地区、尾生町です。停電になり、信号機が作動していませんし、ガードレールが崩れています。

こちらは八木南小学校の体育館です。災害の時の避難場所に体育館が多いと思うのですが、その天井が落ちるくらいの凄まじい台風だったと思います。



岸和田市では災害ボランティアセンターを初めてこの時に立ち上げました。なぜ社協で災害ボランティアセンターをするのということですが、私たちは普段からボランティアセンターの活動をしています。岸和田市社協の中にボランティアセンターがあり、日頃からボランティアをしたいという人と、ボランティアの応援が必要だという人の両方のご相談を受付けて仲介役をしています。

それで必要に応じて災害ボランティアセンターが立ち上がります。大きな被害がなければ立ち上がることはないのですが、一昨年のような大きな災害が起こった時は災害ボランティアセンターが立ち上がります。

発災から 72 時間後に立ち上がるといわれています。なぜ 3 日後かというと、3 日間は人命救助が一番優先されるので、それが一旦落ち着く 3 日後に、必要に応じて立ち上げます。災害ボランティアセンターの目的としては、被災者の方と被災地の方を主体としながら、ボランティアの方の協力を得て地域の復興につなげていくことです。

復興をするためには、ボランティアセンターだけでは到底できないので、全国から来てくれるボランティアさん、地元の皆さん、自治会・町会、医療施設、商工会議所や小学校、青年会等いろんな団体と協力して復興します。その中核の役割を担うのが災害ボランティアセンターになります。

災害ボランティアセンターの仕組みは、受付でボランティアに来てくださった方を迎え、保険加入等の確認をします。その次に、一人で活動するとなると怪我をした時に誰にも言えないことになるので、何人かで活動してもらいます。そして実際の活動の場所が決まれば道案内や車の手配等をします。実際の活動をする前に気を付けていただきたいこと、特に被災者の方の家に行くことが多いので、被災者の方に寄り添ってくださいなどを事前にお伝えするのがオリエンテーションです。そして災害の種別によるのですが、スコップやヘルメットが必要な場合は活動資材をお渡しして現地に行ってもらいます。

そして休憩を取りながら活動をしていただいて、それが終われば帰ってきていただいて、消毒や手洗いをしっかりしていただいて、活動報告をしていただき終了という流れになります。

ボランティアさんは①～⑦にかけてやっています。ボランティア本部は、ボランティアセンター全体を見る部分や、被災者の方のお困りごとを落ち着いた環境で相談を受けます。それが災害ボランティアセンターということになります。災害VCがよくでてくるのですが、これは災害ボランティアセンターの略です。

電話は翌日から鳴り始めた

【主な困りごと】

- ① 屋根瓦が落ちたり飛んだりして雨漏りがして いる。ブルーシートをかけたいが、高齢者や障害者の世帯で自分たちでの作業ができない。
- ② 飛来物の片付けと運搬を手伝ってほしい。
- ③ 庭の倒れた倉庫や木を起こしてほしい。

⇒災害VC設置前であったが、市役所に電話をしたらボランティアセンターを案内された、とのこと。

8

一昨年(2019年)の9月5日時点では災害ボランティアセンターは、立ち上がっていませんでした。しかし翌日から電話が鳴り始めました。そして、いろいろな困りごとがありました。

一番多かったのが、屋根瓦が飛んだので、その補修やブルーシートを一時的に掛けてほしいなどの相談です。他は、飛んできた物の片付けやその運搬を手伝ってほしい。庭の倒れた倉庫や木を起こしてほしいという相談を翌日からお聞きしていました。

なぜこんなに電話があるのだろうと疑問に思いました。市民の皆さんは一旦市役所に問い合わせをします。市役所はお一人の為にだけに行くというのは困難です。市役所は市民の皆さんに平等に、公平に対処することが必要です。それで市役所の職員さんがボランティアセンターに相談してくださいと市民の皆さんにお伝えしてくれていたのも、ボランティアセンターは立ち上がってないけれども翌日から電話が鳴っていました。

地域の支えあいでスピーディーに 復旧作業が進む一方で・・・

地元地縁組織のつながりの強さと動員力

一方で・・・

地域と普段つながっていない人の存在

⇒「災害VC」の看板をわかりやすく掲げるほうが相談しやすい空気をつくれる

9

そんな中、地域の支え合いで復旧作業はスピーディーに進んでいました。浜手のお祭りが近かったこともあり町会長さんをはじめ、若手の方も総動員で片付けをしてくださいました。他市では見られないくらい早く復興が進んでいきました。しかし、普段町会に入っていない方、近所付き合いをあまりしていない方も一定数おられます。その方々のお困りごとはなかなか把握が難しく、災害ボランティアセンターの看板を分かりやすく掲げて相談しやすい空気づくりを出しましょうということで、9月7日から準備をして立ち上げをしていきました。

受付依頼件数
430件
(うち高所作業 276件)

完了件数
232件
(うち高所作業 140件)

※令和元年10月31日現在

10

延べボランティア活動者数

1,194名

※令和元年10月31日現在

11



「地域へのつながり」は岸和田市災害VCの本流

12

**「まかしといて！
すぐに行ってくるわ！」**

**「新しいつながりができて
感謝。」**

13

**声なき声をどう拾う???
～ニーズの掘り起こし（アウトリーチ）の重要性～**



- ・福祉事業所の専門職の協力を得て訪問調査を実施
- ・地域担当者が地元町会長などと地域を巡回
- ・祭礼時に訪問調査や災害VCチラシのポストイン
- ・活動現場への同行時に周辺の気になるお宅を訪問

14

去年の10月末まで受け付け、相談等の対応をしていました。その件数が受付依頼件数 430 件。そのうち高所作業 276 件。完了件数は 232 件、うち高所作業は 140 件。

なぜ、こんなに差があるかということですが、なかには既に業者さんが来てくれたとか、家族が来て手伝ってくれたなどの報告があったので差があります。

ボランティアさんは10月末までですが、1,194 人の方が活動をしてくださいました。お一人の方が何度も来てくれている場合もありますが、本当に多くの方に助けていただきました。

普段町会等に入っていないので手伝ってもらいにくいというような方が災害ボランティアセンターに相談にこられる方もありました。

町会に対応してもらえる困りごとは、町会にこちらからお願いをすることもありました。町会・自治会が快く引き受けてくださることが多かったです。これを機に町会に入るという声もあり、新しいつながりができてありがたうと逆に感謝されることもありました。

相談を電話で受け付けていますが、どこに電話したらいいのかわからない方もおられます。ニーズ・お困りごとを漏れなく拾うにはどうしたらいいのか考えたのですが、方法としては福祉事業所の方の協力を得て訪問調査を行いました。チラシを入れたり、直接インターホンを鳴らし、お困りごとないですか？と声を掛けたり、あとは、社協の職員と地元の町会長で地域を回らせてもらったりしました。それでできるだけ漏れなくニーズ・お困りごとを拾って対応しました。

**最も多い屋根上のニーズ。
受ける？受けない？**

技術系ボランティアは大阪北部地震・7月豪雨の被災地で活動中の中SOSを出しにくい状況。

普段高所作業を行う地元企業も今回はお手上げ・・・



15



16



17



福祉専門職も、地元の消防士も。
人が人を呼び、広がっていく。

18

**少数のヒーローではなく
より多くの方がより多くの人を
支えられるしくみづくりへー**



19

一番多かったお困りごととして屋根上、高所作業、一旦9月の時点で相談を受け付けて、実際作業できるボランティアがいなかったのも、作業はできないけど様子を伺ったりとか、寄付の飲み物やタオルを持っていってお話を聞かせていただきました。

ただ、実際にしていただくボランティアはいなくて、業者はひっきりなしに電話がかかってくるので、そちらで手がいっぱいということでなかなか対応ができませんでした。

けれども実際大阪北部地震で災害ボランティアをされていた愛知人、愛知県のボランティア団体が、9月の末に岸和田の福祉センターに来てくださって、ご相談に乗っていただき10月から現地で活動をし、地元の人に教えてくれました。

道具を使って安全対策を教えてくださいます。ヘルメットをかぶって屋根の上にあがるだけでなく、屋根の下でブルーシートを切ったりと対処の仕方を教えてくれました。ほんとにありがたかったです。愛知人の人達はゆくゆくは愛知に帰ってしまうので、今後どうしたらいいのか私たちも考えて、より多くの方がより多くの人を支えあう仕組みで、町会の防災訓練などに参加させてもらい講習会をしたりしています。



地域住民まで裾野を広げる取り組みを。

20

SENSHU TARP CLUB発足

- ・泉州地域で屋根上応急サポートプロジェクトを広めていくために、平成31年2月から立ち上がったボランティアグループです。「TARP」というのは、雨や日差しを防ぐ布という意味があります。
- ・ブルーシートを掛ける活動、町会の防災訓練や研修会等でシートの掛け方講習会をしています。

21

そんな中で立ち上がった SENSHU TARP CLUB ですが、今日配らせてもらっています青色のチラシは SENSHU TARP CLUB の紹介になります。是非ご覧ください。今も町会や自治会の防災訓練に寄せてもらって避難訓練で講習会をしているので是非講習を依頼してください。



岸和田市民フェスティバルにてブルーシート張り方講習会実施

22

これが市民フェスティバルでのブルーシートの張り方の講習会の様子です。



屋根上の写真を撮るドローンも展示
(特定非営利活動法人 RCLレスキューベンジャミン隊)

23

あとは、ドローンも展示していました。どれくらいブルーシートが必要なのかは、実際屋根に上がってみないとわかりません。そうすると手間がかかりますので、ドローンで撮影をしてブルーシートがどのくらい必要かを事前に知っておけば作業がスムーズなのでそういうこともやっています。



令和元年11月17日 流木町防災訓練での講習

24

これは流木町の様子です。去年ですと阿間河滝町や別所町でさせてもらっています。

明日は大芝です。いろんなところでされてます。

平成30年
台風21号の経験から考える今後の課題

- ①「自助」に本気で取り組むこと
- ② 迅速な被災状況の把握と住民の困りごとをもれなく吸い上げるしくみづくり
(平常時も結局同じ)
- ③ 地域のつながりから漏れる人へのアウトリーチのしくみづくり
- ④「住まうこと」を支えるためのしくみづくり
(行政・事業者・技術系ボランティア・社協の役割分担)

25

ご清聴ありがとうございました

【災害ボランティアセンターに関する問合せ先】

岸和田市ボランティアセンター

☎ 072-430-3366

※水・日・祝日を除く、9時～17時半

FAX : 072-431-1500

E-mail : vc@syakyo.or.jp

26

このような経験から、私たち社協の課題になってく
るのがこの4点です。①「自助」に本気で取り組む
こと。先ほど松林さんが仰っていたように、ご自身
で飼っておられるペットのしつけを普段からきち
んとしておくこと、備蓄、飲み物・食べ物をストック
しておくこと。そのことと関連しまして、同封し
ています親子防災部が作った防災ノートがありま
す。それを作りました「ここから kit」の津山さん
からお話をいただけたらと思います。

「ここから kit」津山さん：岸和田市野田町で子
育て支援の団体をしています NPO 法人「ここから
kit」の津山です。私たちは若いママさん達と一緒
に台風を経験したことで、防災に対する意識が高く
なり、みんなでできることはないかと資料を配布さ
せていただきました。

きしわだ親子防災部というのを立ち上げました。
実際に子育て中のママ達が自分でやっていること
や必要なことをこのノートにまとめました。実際に
自分で防災グッズを作られている方、まったく何も
知らない方、様々な親子さんと会いました。みんな
で何かできればということで、今回きしわだ親子防
災部のパンフレットを作りました。これからはこれ
を活用しながら皆さんに届けられればいいなと
思っています。詳しいことは中を読んでいただけれ
ばわかると思います。高校生の皆さんは5年後、10
年後に子育てをするかもしれませんので、参考にな
るかなと思います。

次に、②番目、③番目です。「迅速な被災状況の
把握と住民の困りごとをもれなく吸い上げるしく
みづくり」「地域のつながりから漏れる人へのアウ
トリーチのしくみづくり」。普段から近所づきあい
をしっかりとおきましょうというということです。
そして④番目、「住まうこと」を支えるためのしく
みづくり」。先ほど屋根の案件が多かったと伝えた
のですが、今後は皆で役割分担をしなければいけ
ないと思います。この後の茶話会で今後皆でできそ
うなことをお話しするので、そのヒントにしてい
ただければと思っています。

駆け足になったのですが私からのお話は以上で終
わります。ご清聴ありがとうございました。

茶 話 会 ～ 閉 会



茶話会の様子



「花は咲く」合唱の様子（和泉高等学校吹奏楽部による演奏）

1 グループ約6人に分かれて「今日の活動発表の感想」「被災経験から得た教訓、今後の備えについて」を茶話会で意見交換を行いました。そのあと、和泉高等学校吹奏楽部の演奏により、「花は咲く」を全員で合唱し、生涯学習推進本部委員長のあいさつで閉会しました。

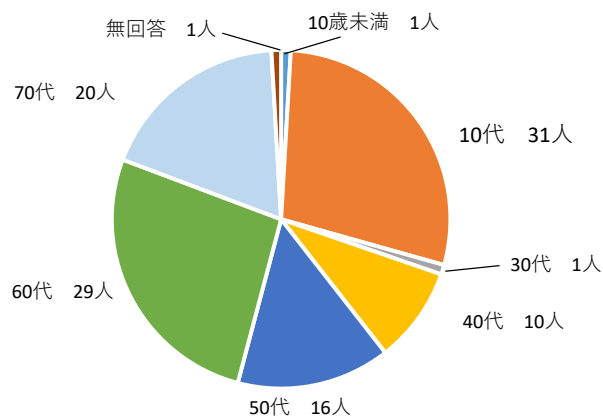
令和元年度「いきいき市民のつどい」アンケート集計

(109枚／138名)

1. あなたの性別（男 33人・ 女 75人）

年 10歳未満	1 人
10代	31 人
30代	1 人
40代	10 人
50代	16 人
60代	29 人
70代	20 人
無回答	1 人

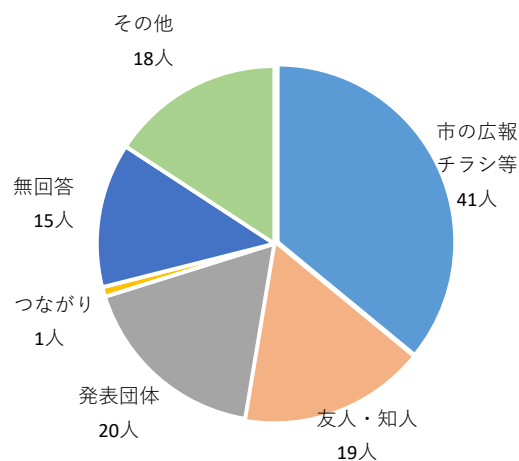
1. あなたの性別（男33人 女19人）



2. この「つどい」に参加されたきっかけを教えてください。 (複数回答あり)

A. 市の広報・チラシ等を見て内容に興味を持った	41 人
B. 友人・知人に誘われた	19 人
C. 発表団体に興味を持った	20 人
D. つながりを作りたい	1 人
無回答	15 人
その他（文化協会、役員、生涯学習委員、出演者）	18 人

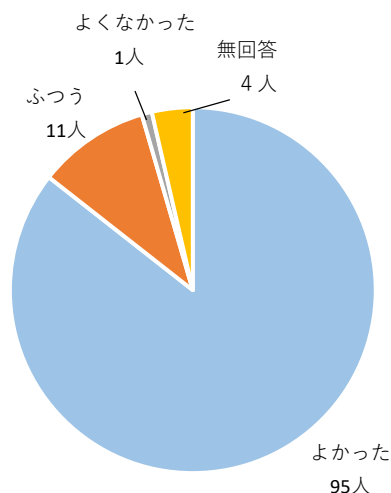
2.つどいに参加されたきっかけは？



3. 活動団体の発表団体の内容は、どうでしたか。 (複数回答あり)

A. よかった	95 人
B. ふつう	11 人
C. よくなかった	1 人
無回答	4 人

3. 活動内容の発表内容は？



全体のよかった点

- ・勉強になった（4人）
- ・興味のわくお話が多く、知ることができてよかったと思った（2人）
- ・防災について知ることができた
- ・被災した時の岸和田の現状を知ってよかったと思う
- ・防災知識が高まった
- ・それぞれみなさんの活動が分かった（3人）
- ・わかりやすく説明してくれた
- ・救助犬に触ることができたり、災害が起きた時、いろんな人がどんな動きをしているかが知れた
- ・各々一所懸命説明・演奏していただき気持ちが伝わった
- ・救犬ジャパン、社協とも初めての話で参考になった

和泉高校のよかった点

- ・高校生の初々しい演奏がよかった。
- ・上手だった
- ・心地いい音楽だった
- ・迫力があつた
- ・吹奏楽部の演奏がすごく迫力があり素敵だった（2人）
- ・笑顔で元気な演奏がよかった
- ・若い方の演奏で元気をもらった
- ・好きな曲ばかりでストレス解消になった
- ・笑顔で楽しそうに演奏している姿がよかった（2人）
- ・明るくかわいらしかった
- ・高校生とは思えないくらい良かった

救犬ジャパンのよかった点

- ・救助犬の話は、初めて聞いたのでよかった（2人）
- ・すごい興味をもつことができた
- ・ふれあい体験がよかった（2人）
- ・救助の内容がわかった
- ・分からない専門用語を説明してくれたので、とても分かりやすく聞きやすかった
- ・救助犬の育て方も興味深くて面白かった
- ・分かりやすい活動報告、金蔵くんとふれあいがよかった
- ・救助犬の仕事がよく分かった
- ・自分で立ち上げた救犬チームの役に立った
- ・家庭犬のしつけの仕方を教えていただきよかった（2人）
- ・ふれあいの時間を何分と区切って知らせた方が、待っている者は分かりやすいと思った
- ・救助犬の認知度を高め、環境を整えなければならぬと感じた
- ・実際に同行避難した際に、他の人の反応などが聞けてよかった
- ・家庭でもできる訓練について聞いてみたかった
- ・救助犬についての苦労話がよかった

岸和田市社会福祉協議会のよかった点

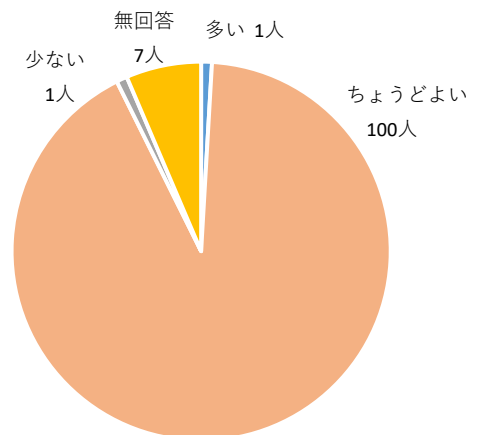
- ・ボランティアセンターの実態を聞けてよかった

- ・自分でできる防災の説明があって分かりやすかった
- ・分かりやすい内容だった
- ・災害についての多くの人々の関わりや活動内容がよく分かった（2人）
- ・福祉協議会の役目など具体的な説明が分かりやすかった（2人）
- ・災害ボランティアの流れがわかった

4. 発表団体の数は、どうでしたか。

A. 多い	1 人
B. ちょうどいい	100 人
C. 少ない	1 人
無回答	7 人

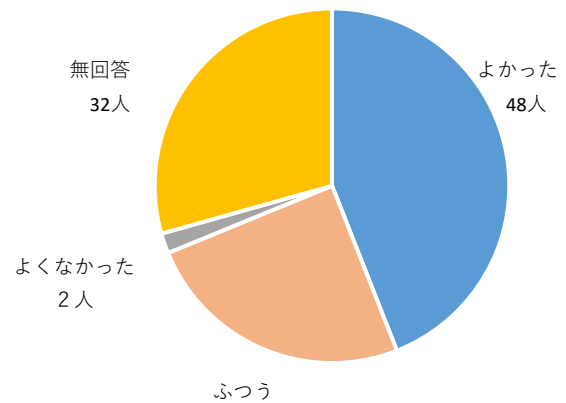
4. 発表団体の数は？



5. 茶話会は、どうでしたか。

A. よかった	48 人
B. ふつう	27 人
C. よくなかった	2 人
無回答	32 人

5. 茶話会はどうでしたか？



A. 茶話会のよかった点

- ・いろいろな方とつながることができた
- ・せっかく参加したのだから、グループミーティングができた甲斐があった
- ・近所の助け合い、声掛けが大切だということがわかった
- ・近くの民生委員さんの名前を知ることができた
- ・災害を身近に経験された人がおられ参考になった
- ・他の団体の方と話す機会が生まれた
- ・災害の備えなど他の方の意見が聞けた
- ・初対面の人といろいろ話げできた
- ・良い勉強になった
- ・他の町の防災の意見が聞けてよかった
- ・いろいろな情報交換ができた（2人）
- ・みんなと自分との感覚の差がわかる
- ・話すことで「こたえ」が見つかる

- ・和泉高校生と一緒に災害の意識について話しあえた（2人）
- ・普段、防災のことを話す機会が少ないのでよかった
- ・少人数のグループで話しやすかった

C. 茶話会のよくなかった点

- ・まったく知らない人とのグループづくりは難しい
- ・話をリードする人がいなかったなので、話しにくかった

その他ご意見

- ・井戸端会議風で雑談ができた

6. 時間は長かったですか？短かったですか？（複数回答あり）

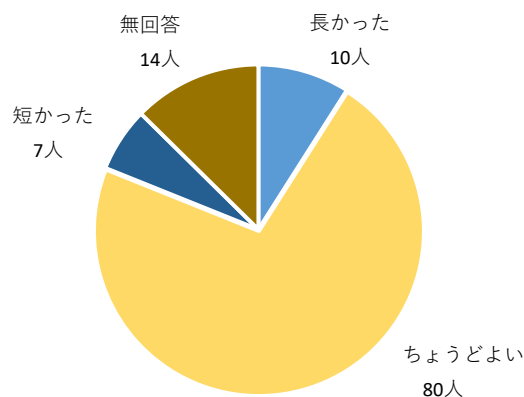
A. 長かった 10 人

B. ちょうどよい 80 人

C. 短かった 7 人

無回答 14 人

6. 時間はどうでしたか？



その他ご意見

- ・和泉高校の演奏はあと2、3曲あってもよかった

7. 被災経験から得た教訓、今後の備えで何が必要と思われますか。

- ・連絡場所がわかりよかった
- ・日常の地域のコミュニティ（5人）
- ・自助の大切さ
- ・いつ何が起こるかかわからないという心構え（3人）
- ・家族との連絡方法
- ・災害がおきたらどうなるかというシミュレーションとある程度の行動予想（2人）
- ・水や電気がなくなる不便さを感じた
- ・発電機などの準備や地域とのつながりが大切だと思った
- ・要援護者登録の活用
- ・ボランティアセンターの立ち上げ時期が7 2時間後
- ・日頃からの訓練と地域の連携
- ・初めの3日間は家族と自分の命を守ること
その後自分のできることを家族の理解を得てボランティアに向かう
- ・もっと日頃から災害への怖さを抱き続けるべきだと思った
- ・情報の伝達方法は、電話はだめだと分かった

今どうしたらいいか、どこへいくか、どうしていくか考える

- ・ 普段からの備蓄と準備（2人）
- ・ 情報発信力と自助をみがきながら共助に貢献すること
- ・ 昨年度の9月の台風では停電が長くて一番困った。食べ物は普段からの備蓄で家族10人食べることができた。家族が多く子どももいるので、食べ物に困らないように備えていた。普段は場所をとるが、備えていてよかったと思った
- ・ 犬の訓練に励み、有事には活動できるように備える（2人）
- ・ 広報活動が大切
- ・ ブルーシート等のかけ方など、日頃から訓練することが必要
- ・ 停電した時のために普段から冷凍室に氷を作って貯蔵している
- ・ 水の備え
- ・ 町会加入など地元に根付いた方法を考える
- ・ 話し合い
- ・ 思いを一つにして助け合いが一番大切だと思った
- ・ 安全が崩れた時にどうすればよいか、安心を得られる心の拠り所を作っておくべきだと思った
- ・ 地震：食器棚の扉が開き食器が落ちて割れた→扉にロックを付けた
台風：テラスと雨樋が破損し、修理に時間がかかった→何か対策が必要
- ・ 日頃からの防災講演等の開催と参加。周知により心構えを強める
- ・ 情報の共有が大切である
- ・ 災害を忘れてしまう。また後で考えようと思いながら後回しになっているので、秋の台風が見直す原点である
- ・ 近隣の方との日頃からのコミュニケーションや理解（私たちの場合ペットも家族であること）と、災害時に本当に使える知識（困った時にどこに相談したらよいのかを知っておくこと）をもつ。
なかなか難しいが、「つながりと助け合い」
- ・ 停電→ガスコンロ又はカセットコンロ、電池
携帯電話→車からの電源 断水→ペットボトルの水
- ・ 早めの判断
- ・ 災害本部の行政がしっかり機能すること
- ・ ペットを災害が起きた時に対応できるようにしつけ、しつけ方を知っておく
- ・ 最低限のライフライン維持の為に電源確保と4日分位の飲料水、携帯電話用の予備バッテリー
- ・ こういう活動への理解、災害が起きたときのことをシミュレーションして家族で話し合い、今からできることをしていく
- ・ 電気・水がいかに大切かという事が分かり、携帯の充電機を購入した
- ・ 被災時の連絡方法及び近隣の方々との関係性が大事
- ・ 行政として救犬のことやボランティアの事をすべきだと思う
- ・ 一週間分の食料
- ・ 食料とトイレの確保
- ・ 懐中電灯などの置き場所確認
- ・ グッズの開発

8. この「つどい」で一番印象に残った内容を教えてください。

- ・ ペットのしつけやコミュニティの形
- ・ 救犬ジャパンの犬がかしこいなと思った
- ・ 防災に対する準備ができてよかった

- ・災害ボランティアセンターの内容が少しわかった
- ・茶話会で車イスユーザーの方の大変さ、心境などを聞くことができ、また地域での見守りの際に気をつけていきたいと思う
- ・参加者が少ない、各種団体にも案内が必要
- ・救犬ジャパン・プラスバンドがよかった
- ・救助犬について学ぶ機会がなかったのでよかったと思う
- ・支えあう、仲間をつくる、社協の活動ぶりを広める
- ・救犬ジャパンの活動についてもっと社会が理解し、活動を支援すべきだと思う
- ・こういうつどいがもっとあればいい
- ・改めて意識を持つ大切さを社会福祉協議会の方のお話で感じた
- ・救助犬を岸和田発信でもっと知ってもらえたらと思う
- ・防災を考え直すことが大切
- ・もっと広報して多くの皆様に参加して頂きたい
- ・災害に備えているいろいろな方が活動してくれていることをうれしく思った
- ・災害の話
- ・今までのやり方よりリラックスできたので、意見がたくさんでた。
- ・被災者に寄り添うこと
- ・一人のためにだけすることが難しい立場にある役所
- ・救犬ジャパンがNPO法人だと聞いて、公共からの支援金が必要だと思った
- ・岸和田のおばあちゃんと話しやすいかった
- ・全体的に印象深いものだった
- ・救犬の大きさにびっくりした
- ・「自助」が大事であるという事
- ・茶話会（2人）
- ・金蔵
- ・救犬ジャパン（4人）
- ・福祉センターで催される時より、違った顔ぶれや比較的若い人たちの参加が多く見られ、活動内容が少しずつ普及していると感じた
- ・演奏がよかったし、救犬のこともいろいろ知ることができた
- ・ボランティア関係の話
- ・救助犬の活動状況（3人）
- ・社会福祉協議会のこと（災害ボランティアセンター）（2人）
- ・高校生等若い方が参加し、意見等を述べる場を作ったこと
- ・普段知る事が出来ない事が多いと思う
- ・テントの張り方や各地域ごとに防災のあり方を点検していく
- ・避難所ではみんなが我慢して過ごしている中で、愛犬と共に過ごす訓練を今から考えておくといことが分かった
- ・災害の時の備えはとても必要なことだと思った
- ・他の地域の人々と語ることができた
- ・ボランティアの大切さ
- ・市等の助け合いは大切だと思った
- ・救犬ジャパンが岸和田にあること
- ・こういった活動を民間で行っているということと、支えあいの大切さを教えてもらった
- ・金蔵と演奏
- ・救犬の存在、壊す建物があれば知らせてと言われたこと

茶話会で話を聞く機会がありよかった

- ・救犬に触れたこと（2人）
- ・ボランティア活動の流れがわかった
- ・ブラスバンド
- ・和泉高校の演奏に間に合わず本当に残念。次回は中ほどのプログラムを希望。

9. 茶話会などの印象をはじめ全体的なご意見・ご希望をお書きください。

- ・茶話会は初めてだったが同じ思いや疑問を持っている方がいるのだと実感できた。
なかなかこのような機会がないので、貴重な体験となった
- ・同行避難について、今後岸和田市では専門の避難所をつくる予定があるのか等気になった
- ・こういったつどいに初めて参加した。熱心に取り組まれているので、また参加したいと思った
- ・訓練についての重要さを感じた
- ・また防災の研修に積極的に参加したいと思う
- ・演奏させていただきありがとうございました。とてもいい経験になった
- ・例えば参加型のイベント等、もう少し参加者を増やすような仕組み、取り組みが必要だと思う
- ・知らない人と防災について話ができたと
- ・いつ起こるかわからない災害だが、それに対していろいろな活動をしている団体等に
公的な支援金が必要だと思う
- ・救助犬活動が広がることを願う
- ・普段このような会に参加することはほとんどないが救助犬の話や災害の時の話を聞けてよかった。
人はやはり支えあって生きていくことが大切だと思った。
- ・若い方達との交流はとても良いと思う
- ・ブルーシートのかけ方の講習会を体験したい
- ・演奏が素晴らしかった
- ・本日は演奏をさせて頂きありがとうございました。見てくださっている方々がとても暖かく、
楽しく演奏できました。
- ・つどいに参加の皆様は積極的に防災に取り組もうとされていることが心強く感じ、安心につながった
- ・茶話会は知らない方と話ができよかった
- ・ペットとの災害への対策を具体的に教えてほしい
- ・普段聞くことができないので聞けてよかった
- ・狭い（小さい）地域でのこういう会を岸和田中で開くとよい
- ・少し遅れて入館した。会場内に入れるか心配したが、余裕がありよかった。反面まだまだ
一般の意識が低いと感じた
- ・初めて参加され、とても有意義に過ごされている様子がよかった。いいつなかりをこの時だけでも
気持ちよく感じられた
- ・この「つどい」がなければ知る事ができないことがあった
- ・社会福祉協議会のボランティアセンターの存在と活動などを広く知らせたらいいと思う
- ・素敵な話がたいへん勉強になった。人のつながり、出逢い、生きる力を教えてもらった
- ・町会に入っている、入っていないに関わらず、災害時は地域で救援しなければならないと思う
- ・災害ボランティアの活用はよく知らなかった。昨年の台風時には町内で10軒ほど電気の復旧がされ
ず、1週間近く電気のない生活だった。その間、市や町内からの支援がなく、本当に大変だった。
- ・ボランティアセンター・社協はもっとPRをすればよいと思う

防災フェス

今からできる
愛犬もいざに備えよう



岸和田発 今の防災、 明日の防災

～つながろう すべてを越えて～

第22回
いきいき
市民の
つどい

日時：令和2年1月25日（土）
13：30～15：30（受付13：00～）
場所：市立産業会館（別所町3丁目13-26）

タイムスケジュール

13：30 開会

オープニング 和泉高校吹奏楽部 演奏

14：00 活動発表 救犬ジャパン松林良子さん

- ・災害救助犬について
- ・平成30年西日本豪雨の出動・訓練について
- ・今からできる備えのための犬のしつけ

14：20 災害救助犬「金蔵」くんとふれあい体験
「金蔵」くんと一緒に写真撮影もできるよ♪

14：30 活動発表 岸和田市社会福祉協議会

- ・発災時に市民の皆さんとどう動くか
～災害ボランティアセンターとの連携について～

15：00 意見交流会（茶話会）

- ・被災経験から得た教訓、今後の備え

15：25 合唱「花は咲く」

15：30 閉会



活動発表&
ふれあい体験

救犬ジャパン
まつばやしりょうこ
松林 良子さん

岸和田育ちの
災害救助犬
岸和田市在住
救助犬訓練士

岸和田市
社会福祉協議会

地域の復興
災害ボランティア
センター



活動
発表

参加者に防災グッズ
プレゼント♪

非常食
アルファ化米



携帯トイレ
→



←緊急用呼び笛



演奏

和泉高校
吹奏楽部

Twitterで話題！
音楽をチカラに
変える

申込締切日：令和2年1月10日（金）

申込方法：住所、氏名、電話番号を記入の上、
FAX、電子メールまたは電話、生涯学習課（岸和田
市立公民館）の窓口にて申込みください。

〔申込み・問合せ先〕

岸和田市立公民館（堺町1-1）

TEL：072-423-9616

FAX：072-423-3011

メール syogaig@city.kishiwada.osaka.jp



第22回いきいき市民のつどい申込書

電話、窓口でのお申し込み・問い合わせは

生涯学習課（堺町1-1 市立公民館内） TEL：423-9616

受付：12/29～1/3、月曜日・祝日以外の午前9時～午後5時30分

電子メールでのお申し込みは

syogaig@city.kishiwada.osaka.jp まで

件名に「いきいき市民のつどい参加申込」、本文に氏名、住所、電話番号、保育、手話通訳、要約筆記希望の有無をご記入の上、送信してください。

FAXでのお申し込みは 下記申込書にご記入の上

生涯学習課 FAX：423-3011 まで

- ◇ 保育（1歳半～就学前児童、先着15人）、手話通訳、要約筆記をご希望の方は、丸印をご記入ください。
- ◇ 保育をご希望された方には生涯学習課より、お子様の名前と年齢等を電話にてお伺いいたします。

令和2年1月25日（土）第22回いきいき市民のつどい申込書

※所属団体がありましたら、できるだけご記入ください。 ↓希望の方は○印

氏名	所 属	住所	電話番号 (携帯可)	保育	手話 通訳	要約 筆記

令和元年度 第22回 いきいき市民のつどい
岸和田発 今の防災、明日の防災
～つながろう すべてを越えて～

日時：令和2年1月25日（土）午後1時30分～3時30分

場所：市立産業会館（別所町3丁目13-26）

参加者 138名 保育なし

手話通訳者なし・要約筆記申込なし



第22回 いきいき市民のつどい 記録集

発行・編集：岸和田市教育委員会生涯学習部生涯学習課

所在地：〒596-0072

大阪府岸和田市堺町1番1号 岸和田市立公民館内

電話 072-423-9616(直通)

発行年月：令和2年3月